

Case study

AIM導入で進化する運用業務： マニュアル作業削減と「考える時間」が 地域経済を支える新たな力に

株式会社 肥後銀行 市場金融部様



Bloomberg Buy-Side Solutions

本社

熊本県熊本市

業種

銀行

業務内容

- ・ 預金・貸出業務
- ・ 商品有価証券売買業務
- ・ 有価証券投資業務
- ・ 内国為替業務
- ・ 外国為替業務
- ・ 社債受託および登録業務
- ・ スワップ取引業務
- ・ その他附帯業務

業務上の課題

市場金融部における証券取引の STP 化を通じた業務効率向上とリスク低減

ブルームバーグのソリューション

AIM(注文管理システム)、BIPROGY 社「Siatol」とのシステム接続

導入後の成果

- ・ 発注から決済に至る運用業務の一連のプロセスを自動化
- ・ 約定前の 8 割、約定後の 5 割に相当するマニュアル作業を削減
- ・ 運用チーム内で取引の進捗状況やルール判定を広く共有
- ・ シームレスなデータ連携で PORT（ポートフォリオ分析機能）や Bloomberg Lab（金融データ分析機能）との連携など拡張性も視野に
- ・ ブルームバーグターミナルをベースに多様な外部システムとも接続連携が容易に

肥後銀行：市場金融部様

2025 年に創立 100 年を迎える肥後銀行は、台湾積体電路製造（TSMC）の進出によって地域経済の活性化の最中にある熊本県最大の地方銀行です。九州フィナンシャルグループの一員として、「お客様・地域・社員とともに、より良い未来を創造する『地域価値共創グループ』への進化」へ向けた取り組みを加速させるべく、2024 年 4 月から「躍進」をテーマとした 3 年間の中期経営計画をスタートさせています。

市場金融部が運用業務を遂行するにあたっては、コンプライアンスチェックから引き合い、発注、約定、照合、決済まで、行内のルールや規程に則った数多くの手続きを踏んでいます。これら一連のプロセスにおいて DX およびデジタルイノベーションを推進し、業務効率向上を図りながら収益性を高めていくことが、「躍進」を遂げるうえでの大きなカギを握ります。

課題：証券取引の STP 化を通じた業務効率向上とリスク低減

ブルームバーグのソリューション導入以前は、情報系システムから出力した紙の資料をベースにポジションの確認やコンプライアンスチェックを実施するなど、いわゆるマニュアル作業が多く残っており、DX 実現のハードルとなっていました。そうした状況下では、目検によるヒューマンエラーやボイス約定での過誤による誤発注リスクが懸念されるほか、引き合いやポストトレードなどにかかる人的リソースが逼迫し、市場分析や運用方針策定といった本来注力すべき業務に十分な時間を割くことができません。

証券取引の STP 化を通じて約定関連の属人的なワークフローを統一されたシステムとして共有・自動化し、業務効率向上とリスク低減を図るとともに、人的リソースの再配分によってリサーチ業務を深化させ、いかにアルファ獲得につなげていくかが課題となっていました。

ブルームバーグのソリューション

AIM（注文管理システム）、BIPROGY 社「Siatol」とのシステム接続

結果：約定前の 8 割、約定後の 5 割に相当するマニュアル作業を削減

肥後銀行はブルームバーグの DX ソリューションである AIM（注文管理システム）を導入し、時間短縮によるフロント・ミドルオフィス業務の効率化とオペレーショナルリスクの低減を実現しました。導入前は「電話での約定がメインでしたが、電子発注になることで、引き合いのやりやすさが格段に向上した」といいます。証券取引約定前の 8 割、約定後の 5 割に相当するマニュアル作業時間が短縮され、行内外のデータ集約や各担当者間の意思疎通も行いやすくなっています。今後は運用の高度化へ向け、PORT（ポートフォリオ分析機能）や Bloomberg Lab（金融データ分析機能）との連携、さらにはバックオフィス業務を担う BIPROGY 社の提供する Siatol とのシステム接続も視野に入れています。

ブルームバーグでは、BIPROGY 社との接続にとどまらず、さらなる業務効率化に向けて地域金融機関が必要とする多様な外部システムとの連携も積極的に行っています。現在も東京証券取引所の ETF 用 RFQ プラットフォーム「CONNEQTOR」と AIM の接続連携が進行中であり、今後も業務の利便性のいっそうの向上が期待されています。

人的リソースの解放

「考える時間」が増えることで、業務のクリエイティビティが向上

市場金融部の運用業務には、アセットクラスに応じた保有限度額など、さまざまなコンプライアンス上の制限が課されています。従来は各担当者が毎回 Excel シートを更新したり、市場系システムから出力された帳票を目で確認するなどの対応を取っていました。しかし、こうした手作業や目検によるチェックでは非効率なうえに、誤発注のリスクも伴います。

今回、ブルームバーグの AIM を導入したことにより、コンプライアンスチェックから決済まで一連の運用プロセスにおける業務時間の大幅な短縮と、個人知に依拠していた属人的なワークフローの統一化が実現しました。人的リソースをオペレーションや資料作成から解放したことで「考える時間」が増え、運用業務のクリエイティビティ向上にもつながっています。今後は AIM に銀行内のさまざまなデータを集約・蓄積し、それらをブルームバーグの市場データと融合する形で活用しながら、「人間がやるべきことを人間がやり、地方銀行として地域価値の創造にまい進していきたい」と取締役常務執行役員の内山一慶氏は抱負を語っています。

ポストトレードにおける過誤や抜け漏れ防止、バックオフィスも含めたワークライフバランス改善

約定後の事務処理は基本的にバックオフィスが担いますが、その進捗状況を AIM 上でフロントサイドでも確認できるようになり、ポストトレードにおける過誤や抜け漏れの防止につながっています。また、AIM を通じて 1 日のオーダー予定や発注状況を共有できるため、バックオフィスが最大業務量を事前に把握することも可能になりました。フロント・ミドルはもちろんバックオフィスも含めて働き方改革が進み、市場金融部全体としてワークライフバランスに改善が見られています。

運用業務の効率化とワークフローの共有

取引の照合・承認時間を 10~15 分短縮、買い場を逃すリスクも低減

従来、個別株取引におけるコンファメーション照合は証券会社からの売買明細を手動でデータ入力し、運用チームの上司による一時承認を受けた後、バックオフィスへ渡すという流れで行っていました。ブルームバーグの AIM 導入以前は、証券会社からコンファメーションが来るのに 10 ~ 15 分はかかっていたのが、導入後はその時間が短縮され、場が引けた瞬間から約定処理に取り掛かれるようになっています。

特に外国債券取引では、朝の寄り付きのタイミングですぐに動きたい場合でも、前日のデータをすべて紙で出力し、ポートフォリオをチェックしたうえで承認申請する必要がありました。AIM の導入後は、前日データをもとに洗いがえたポートフォリオの状況が自動的に表示されるため、承認時間を含めて 10 ~ 15 分の時間短縮が可能となり、データを確認している間に買い場を逃すといったリスクが低減しています。

取引の進捗やルール判定をチーム内で共有、人為的ミス防止

AIM は市場金融部内のコミュニケーション向上にも大きな効果をもたらしています。各アセットの運用チーム内、さらにはフロントオフィス全体においても各人が担当する取引の内容や進捗状況を共有しやすくなり、オーダー漏れを相互に確認したり、ワークフローを他の担当者が代替できる体制が整っています。

過去には、保有アセットのブックバリューやプレゼントバリューを算出するにあたって、行内で決められたロジックが反映されていないがために、コンプライアンスチェックで引っかかるという事例が起きていました。そうした人為的なミスも、AIM という一つのプラットフォーム内でルール判定を共有することにより防げるようになっています。

“自動化によるリソースの解放が大きい。
「考える時間」を「人間でしか生み出せないもの」に使い、
地銀として地域価値の創造にまい進したい”

取締役常務執行役員 内山 一慶氏

ブルームバーグを選んだ理由

使い慣れた UI、日本語による即時サポート

肥後銀行ではかねてよりブルームバーグ端末を使用していたため、UI へのなじみが深く、システム利用の勘所が行内で共有されていることで、導入もスムーズであろうという安心感、信頼感が大きな理由の一つとなりました。もう一つの大きな理由は、日本語による即時のサポート体制でした。普段からの日本語による手厚く親身な対応があったとし、「AIM 導入に際しても、そこは担保されるだろうと思っていた」と、市場金融部市場企画グループ企画役代理の西谷真貴氏は語っています。

「ブルームバーグを使って、もっといろいろなことができるはずなのに、情報端末としてしか活用できていない点について、課題に感じていた」という西谷氏。そこで、「事務作業がいかに多く、本来の業務における『考える時間』を奪っているか」という点を見える化し、内山氏をはじめとする上層部に働きかけました。

自行の課題とマッチするソリューション、スピーディな導入プロセス

自動化やデジタル化、DX 推進は業界全体でも喫緊の課題となっています。導入にあたって、肥後銀行でも数社のサービスを比較検討しましたが、コストパフォーマンスやスペックの過不足などを含め、自行が抱えている課題とブルームバーグによって提供されるソリューションのマッチングを実感できたことが、最終的な AIM 導入の決め手となりました。

肥後銀行では、細かいコンプライアンスチェック項目が 200 ほど定められています。2022 年に AIM 導入の検討を始め、ブルームバーグと毎週ミーティングを重ね、それらの項目を一つひとつクリアにしていく地道なやり取りが繰り返されました。その結果、業界的にはきわめて短いスパンとなる半年間で今回の導入の実現にいたりしました。

今後はリサーチ業務の深化とアルファ獲得、収益性向上を目指す

フォワードルッキングなポートフォリオ分析の実現へ

自動化が進み、分析に使える時間が増えれば、次に求められるのは収益の部分です。各アセットクラスの値動きも過去とは異なりつつあるなか、「スピードも含め従来型のポートフォリオ管理では対応が難しいケースも増えてきている」と内山氏はいいます。AIM を入れて終わりではなく、AIM にデータを集約し、蓄積された自行データをブルームバーグの膨大なデータベースと融合、その先のさらなる化学反応につなげていきたい考えです。

今後は AIM とブルームバーグのポートフォリオ & リスク分析ソリューション PORT を連携して、フォワードルッキングなポートフォリオ分析や、同一取引日のうちに決済するデイトレード・ポジションなど戦略別の分析も視野に入れています。さらにはブルームバーグの金融データ分析プラットフォーム Bloomberg Lab とも連携し、各アセットのボラティリティや相関構造などを分析しながら、より大きなアルファ獲得につながる戦略運用の実現も検討されています。

将来的には九州 FG 利用によるスケールメリットも

肥後銀行ではバックオフィス機能を担う市場系システムとして BIPROGY 社の Siatol を利用しています。今後は Siatol のクラウド化を進めたうえで AIM と接続し、運用業務を完全なノータッチトレードへ移行させることが大きなテーマとなります。加えて、将来的には九州フィナンシャルグループとしての AIM 利用も視野に入れ、コスト削減などのスケールメリットも享受できると期待されています。

BIPROGY 社の Siatol シリーズとのシステム間連携について

このたびの肥後銀行様による弊社ソリューション導入に先立ち、ブルームバーグでは、BIPROGY 社の Siatol シリーズと、AIM をはじめとする複数のブルームバーグのソリューションとのシステム間連携を進めました。Siatol は日本の地方銀行の皆様に幅広く採用されている市場取引統合管理システムです。この連携により、従来お客様のご負担により行われていた Siatol と AIM とのシステム接続およびデータ連携の必要がなくなり、Siatol から自動で AIM を介して複数のシステムにアクセスが可能となったため、迅速でスムーズな業務効率化とコスト最適化を実現することができました。

システムを運営する BIPROGY 株式会社（旧社名：日本ユニシス株式会社）は、クラウドやアウトソーシングなどのサービスビジネス、コンピュータシステムやネットワークシステムの販売・賃貸、ソフトウェアの開発・販売および各種システムサービスを手がける企業です。「先見性と洞察力でテクノロジーの持つ可能性を引き出し、持続可能な社会を創出すること」をパーパスにかけ、多様な外部企業との協業や、新たなテクノロジーの活用を行い、付加価値の高いサービスの展開に取り組んでいます。

“他の地銀に AIM ユーザーが広がれば、コミュニティを構築し、共通課題や知見を分かち合える”

市場金融部 市場運用グループ 調査役代理 益永 聡志氏

運用業務の進化が、地域金融の発展を加速



肥後銀行本店前にて市場金融部の皆さまとブルームバーグ・プロダクトチーム

キーポイント

- 発注から決済までの運用業務を自動化
- 約定前 8 割、約定後の 5 割に相当するマニュアル作業を削減
- バックオフィスも含めてワークライフバランスが改善
- 取引の進捗状況やルール判定を広く共有
- シームレスなデータ共有で PORT や Bloomberg Lab との連携など拡張性も視野に

役員および担当者様コメント



DX 推進でより有機的に地域価値の創造へ

「地域価値の創造にどれだけ多くの人的リソースをつぎ込めるかは、最重要課題。これまで 1 日の大半をマニュアル作業に費やしていたとの報告に驚いた。AIM を導入して終わりではなく、今後は行内データをブルームバーグの市場データと掛け合わせるなど、より有機的な価値創造に努めたい」

—取締役常務執行役員 内山 一慶氏



自動化で業務の可視化、共有化が進んだ

「各人が異なるアセットクラスを担当しているため、同じチーム内でも担当者以外には見え辛いワークフローがあった。AIM 導入後はそれが可視化され、進捗状況の相互確認やワークフローの代替が可能になるなど、業務の共有化が進んでいる」

—市場金融部 市場企画グループ 企画役代理 西谷 真貴氏



他地銀ユーザーとの AIM コミュニティの広がりを期待

「AIM ユーザーが日本全国に拡大し、他の地銀ユーザーとつながることでコミュニティが構築できることを願う。共通課題やポートフォリオ分析などに関する示唆が得られれば、安定的な収益獲得へ向けてより有効に活用できる」

—市場金融部 市場運用グループ調査役代理 益永 聡志氏



今後はプログラミングができる人材を確保し、金融分析に注力

「AIM を Bloomberg Lab と連携して金融分析に注力していくには、Python(プログラミング言語)を使いこなせるようなデータサイエンティストが不可欠。今後もセミナーなどの学習機会を増やして欲しい。積極的に参加し、IT にも市場にも強い人材の育成や、データ活用に生かしたい」

—市場金融部 市場運用グループ 片岡 義喜氏

Take the next step.

詳細につきましては、ブルームバーグ
ターミナルで<HELP>キーを2度押して
お問い合わせください。

北京 +86 10 6649 7500	香港 +852 2977 6000	ニューヨーク +1 212 318 2000	シンガポール +65 6212 1000
ドバイ +971 4 364 1000	ロンドン +44 20 7330 7500	サンフランシスコ +1 415 912 2960	シドニー +61 2 9777 8600
フランクフルト +49 69 9204 1210	ムンバイ +91 22 5090 3600	サンパウロ +55 11 2395 9000	東京 +81 3 4565 8900

bloomberg.com/buyside

本資料に含まれるデータは、例示を唯一の目的としています。ブルームバーグターミナルのサービスおよびブルームバーグのデータ商品(以下「サービス」)は、ブルームバーグファイナンス・エル・ピー(以下「BFLP」)が所有、配信しています。ただし、(i) アルゼンチン、オーストラリアおよび太平洋諸島の一部の管轄区域、バミューダ、中国、インド、日本、韓国、ならびにニュージーランドでは、ブルームバーグエル・ピーおよびその子会社(以下「BLP」)が、(ii) シンガポールおよびブルームバーグシンガポールオフィスの管轄区域ではBFLPの子会社が、当該サービスを配信しています。BLPまたはその子会社の1社は、BFLPおよびその子会社にグローバルマーケティング業務および運用支援・サービス業務を提供しています。特定の特徴、機能、商品およびサービスは、高度な投資判断能力のある機関投資家のみを対象としており、法的に認められている場合にのみ提供されます。BFLP、BLPおよびそれらの関連会社は、当該サービスに含まれる価格または情報の正確性を保証しません。当該サービスのいかなる事項も、BFLP、BLPまたはそれらの関連会社による金融商品の勧誘、投資戦略や金融商品の「売り」、「買い」、「中立」に関する投資助言または推奨を構成するものではなく、そのように解釈されるべきではありません。当該サービスを通じて提供される情報は、投資判断の根拠となる十分な情報とみなされるべきではありません。以下は、米国デラウェア州のリミテッドパートナーシップであるBFLPまたはその子会社の登録商標およびサービスマークです:ブルームバーグ、BLOOMBERG ANYWHERE、ブルームバーグマーケット、ブルームバーグニュース、ブルームバーグプロフェッショナル、ブルームバーグターミナル、BLOOMBERG.COM。登録商標またはサービスマークがこのリストに記載されていない場合も、当該名称、マーク、またはロゴに対するブルームバーグの知的財産権を放棄するものではありません。無断複写・複製・転載を禁じます。© 2025 Bloomberg. 924756 0825